

乙女高原が好き！ 2004号

相次ぐイベントの中止・縮小・延期

2020年は新型コロナウイルスに振り回された1年でした。私たちは生活様式の見直しを余儀なくされ、中央一極集中からの脱却やリモートワークに代表される働き方の変化などビジネスの世界も変化がありました。東京オリンピックの延期をはじめ、様々なイベントが中止や縮小になりました。

乙女高原の活動も同様です。3大イベントである遊歩道づくり・草刈りボランティア・フォーラムも大きく影響を受けました。遊歩道づくりは公式イベントとしては中止とし、世話人・案内人・市や県の職員など一部のメンバーで実施しました。草刈りボランティアもやはり中止せざるを得ませんでした（善後策は記事の中で紹介します）。そして、1月31日に予定していたフォーラムは1年延期することになりました。

しかし、乙女高原を守っていくためには何もしないわけにはいきません。コロナ禍でも知恵をしばり、多くの方の力を借りて乗り切ったという感じです。

このように地道な活動を続けてきた乙女高原ファンクラブが、今年の4月22日になんと設立20周年を迎えます。元々スキー場でしたが、スキー場の廃止後も多くの花を咲かせる高原の姿を後世に残したいという思いから始まったものです。そんな乙女高原ファンクラブも、このすてきな高原を未来の子供たちに伝えていくには世代交代が必要になってきました。今年は世話人改選の年でもあります。次の20年も変わらない乙女高原を引き継ぐために、みなさんのご協力をお願いします。

勝手に「草刈りボランティア」

新型コロナの影響を踏まえて、「第20回草刈りボランティア」は相当規模を縮小して行うことを10月の世話人会で決定しました。参加人数の制限・バスの送迎中止・ごみ収集車で刈草運搬をしない・キッズボランティア中止・楽しみな豚汁作りも中止して午前中のみの開催とする内容です。当然例年通りの草刈りはできません。その分草刈りボランティアの準備に力を入れて乗り切ろうと考えました。ところがその後も新型コロナの感染拡大が続き、規模を縮小したとしても開催は困難な状況になってきたのです。市や県とも協議を重ね、20年間途切れることなく続いてきた草刈りボランティアですが、最終的に中止とすることに決まりました。

しかし、乙女高原の維持のためには草刈りを行わないわけにはいきません。植原さんから乙女高原ファンクラブの世話人や草刈りスタッフに立候補して下さった方などに、「活動が必要だと思う人・活動をしたいと思う人が『個人の判断で』『勝手に』草を刈ったり運んだりする活動」の提案がメールでありました。そのような成り行きで、今年の草刈りボランティアは個人個人の判断で行う「勝手に草刈りボランティア」という形になりました。

～～試行錯誤の草刈りボランティアの様子をご報告します～～

◆草刈りボランティア下準備の会 11月07日(土)

記事：植原 彰

またも乙女天気でした。2・3日前の天気予報では、晴天が続く中、この日だけが雨予報でしたが、当日朝は青空がまぶしいくらいで、寒さも感じませんでした。

集合時刻は9時でしたが、ウエハラは1時間半ほど前から準備を始めました。今日のメインの作業はロープ回収と整理でしたので、その前にロープを保管する倉庫内の掃除をしておく必要があったのです。倉庫内のファンクラブ備



品を出して整理し、掃き掃除をしました。ほこりがすごかったので、コロナ対策のマスクが役に立ちました。雨宮さんも早く来てくださり、地面に2本ずつの杭を打ち込んだりと、ロープ整理の準備をしてくださいました。そうこうしているうちに、皆さんが続々集合。なんと16人。打ち合わせをし、作業を開始しました。さっきも書きましたが、今日のメインの作業はロープ回収と整理。もちろんご自分の体力や体調を考えながらですが、初めのうちは回収の人数を多く、ロープが集まった後半は整理の人数が多くなると、作業が効率的です。また、体力がある方は作業量の多いロープ回収に、体力に自信のない方はロープ整理のほうがいいでしょう。さらに、今は天気がいいですが、午後から崩れる予報なので、野外での作業を先に、室内での作業は後回しにしたほうがいいでしょう。一般的にはリーダーが「はい、あなた、ロープ回収係から整理係に移って」などと指示するのですが、ファンクラブのいいところは、これらの条件を、作業に参加された方がそれぞれ自主的に判断して、係の仕事を続けたり、まわりの状況を見て他の係に移ったりすることです。マルハナバチにはリーダーがおらず、他の働きバチの仕事内容や花の咲き具合を個体個体で判断して、担当の花を決めているのと同じです。作業内容は以下の通りです。今年参加できなかった方、来年ぜひお願いします。

- ・ **ロープ回収**：遊歩道のロープを外して、ロッジの庭に運ぶ。外しにくかったら、マイナスドライバーを使う。
- ・ **ロープ整理**：回収したロープを、来年のロープ張りのときに絡まらないようにまき直し、倉庫にしまう。地面に刺した2本の杭の間をぐるぐる巻いていく。遊歩道のどのルートのロープか分かるように、ロープの端に色ビニールテープを付ける。
- ・ **ロッジのホールの掃除**
- ・ **トイレの掃除**：とにかく掃除に水は必須なので、ペットボトルに入れて持ち込みました。水は緊急用に普段から常備しておく必要があるので、ロッジに置いてあります。
- ・ **倉庫の整理と掃除**
- ・ **林道の側溝の落ち葉や泥の片付け**：側溝からあふれ出た水によって林道の一部が水浸し状態でした。このままでは路面凍結の恐れがあり、草刈り参加者に迷惑や怖い思いをさせてしまう可能性があります。林道を管理している県に報告して対処してもらおうのが筋でしょうが、それでは間に合わないかもしれませんし、そもそも、霜が降りる前に作業を済ませてしまいたいので、自分たちでやってしまいました。作業後、湿地から道路にしみ出してしまった水は側溝をスムーズに流れるようになりました。

※市職員のお二人は、タイヤが付いていて走行できる草刈り機（見た目は大型管理機といった感じ）で、草原の草刈りをしてくださいました。密を避けて開会・閉会行事をするためのスペースを作るためです。

幾度か空が暗くなることもありましたが、なんと午前中には作業を終わらせることができました。倉庫前に吹き溜まった落ち葉などの掃除もしました。何年分の落ち葉だったのでしょうか。ロッジ裏にテーブルが持ち出され、まわりに焼酎の空きペットボトルが散乱していました。なにが起こったか、容易に想像がつかます。ゴミを回収し、テーブルを屋根の下に移動させました。みんなでお昼を食べ、ゆっくり休んだ後、初冬の乙女高原を歩き回り、自然観察を楽しみました。雨宮さんは午後からも屋根の落ち葉を掃き下ろす作業をしてくださいました。また、あずまやの裏から段ボールひと箱分のごみも回収してくださいました。

◆「勝手に草刈りボランティア」当日 11月23日(祝)

記事：植原 彰

11月23日、11月とはとても思えないくらい暖かく、穏やかな1日でした。中止になっているのですから組織的に行うわけにはいきませんが、組織的には行えませんが、事故でも起きたら大変です。急ぎょ保険には加入しました。保険に加入するためには名簿を準備する必要があります。テーブルの上に名簿を置いて、各自、記入してもらいました。コロナ対策として急ぎょ、前日に「非接触型の体温計」を購入し、体温測定もしました。中止になる前にペットボトル茶や作業用手袋は買ってしまってあったので、それを配布しました。まるで受付です。組織的には行えませんが、けが人でも出たらたいへんです。救護センターを設置しました。ベンチの上に救急用品を並べました。

乙女高原に着いた順に作業を始めてもらいましたが、中には「草刈り中止は知っていましたが、来てみました」「たまたま乙女高原にいたら、作業が始まったので、自分にも作業させてください」など、様々な方が作業をしてくださいました。到着時間も朝早い人から遅い人まで。早く帰る人から遅くまでいる人まで。本当に勝手にきて勝手に帰るといふ作業形態でした。各自がそれぞれ自分が必要だと思う作業を、自分のペースに合わせて行いました。とても全部は書ききれませんが、こんな作業です。

- ・刈り払い機による草刈り→遊歩道の両側を優先して刈れば、それを遊歩道に敷き入れることができます。また、今回は谷地坊主湿地に向かう旧遊歩道の急坂に刈り草を藁撒きする計画なので、その周辺も優先的に刈ってもらいました。
- ・鎌による手刈り→遊歩道「ツツジのコース」周辺はレンゲツツジが多く、刈り払い機ではツツジを傷つけてしまう可能性があります。鎌を使って丁寧に草を刈ります。
- ・林道の両側の草刈り→「乙女高原の顔」とも言えますからね、ていねいに草刈りしてくださいました。シカ柵と木製柵の間の細長いエリアはすでに草刈りされていましたが、どなたが？
- ・谷地坊主湿地に向かう旧遊歩道の急坂への藁撒き→県の事業で階段状に柵を設置してもらいましたが、今度はその両側の土が流されてしまいました。そこで、今年の春、遊歩道のこの部分を閉鎖し、新たな遊歩道を設置しました。閉鎖した部分に周囲の刈り草を多めに敷き入れ(=藁撒き工法)、植生の回復を待ちます。
- ・遊歩道への刈り草の敷き入れ→急な坂でなくても、遊歩道はどうしても、えぐられ、窪んでしまいます。人の踏みつけによって草が生えにくく、降った雨によって土が流されてしまうからです。そこで、乙女高原では刈った草を遊歩道に敷き入れ、雨の影響を小さくしています。敷き入れるときは遊歩道の向きと直角方向に入れるのがミソ。そうしないと、歩いた時、すべって転びやすくなってしまいます。
- ・解説板の清掃→ペットボトルの水をかけ、スポンジたわしでこすりました。見違えるほどきれいになりました。
- ・シカ柵出入口の金具を固定→春から秋の間は、シカ柵出入口のドアを閉めるとき、金具を下ろしてもらっていました。このまま冬を迎えると、地面の中が凍ってドアを押し上げ、金具をグニャッと曲げてしまいます。そこで、冬の間だけチェーンを巻き付ける形で、ドアを閉めてもらいます。そのための作業を行いました。

お昼になり、いったん作業中断。もちろん予定にはありませんでしたが、いつもの年のように「乙女高原の写真屋さん」古屋さんに記念写真を撮ってもらいました。



今年度は1月の乙女高原フォーラムも延期なので、乙女高原フェローの認証も行いました。今年、乙女高原フェローに認証されたのは角田さんお一人でした。

お昼を食べた後も、残っていける人は残って作業を続け、3時前には終了しました。まだ刈り残し、敷き入れ残しが相当あります。これをどうするかが今後の課題です。

乙女高原観察報告

◆乙女高原、秋の彩り! (2020/10/3 自然観察交流会) 記事: 井上 敬子

10月3日の乙女高原観察交流会には4名が参加しました。道の駅に集合して、コロナ禍でもあるので各自の車で高原に向かいました。

途中、サワラ林の所に立ち寄りました。カメバヒキオコシが林縁に咲いています。紫色のかわいい花にミヤママルハナバチが訪れていました。少し歩いてみるとセキヤノアキチョウジも法面から垂れ下がって風情のある姿で咲いていました。ウリノキ、サンショウ、ニシキギ、フシグロセンノウ、ヨウシュヤマゴボウなどの実もありました。

焼山峠から小檜山林道に入って、ここに咲いていたレイジンソウの種類を確認。茎の下の方には穂があり、花には開出毛があったことから普通のレイジンソウだと確認できました。道端にはナギナタコウジュ、カメバヒキオコシ、ノコンギクなど咲いていました。ヒメツチハンミョウが1匹、薄茶色のムカデのような虫がたくさんいました。(後日このムカデのような虫は8年に一度出現するキシヤヤスデとわかりました)

またここにはウリ科のつる性植物の実や花があり、スズメウリではないかと言いながら観察しました。実は黄緑色で下が細くなった楕円形で下には花の痕が残っています。観ていくと実が割れて種は落ちてしまい、3裂したものが残っていました。これはスズメウリとは違うものだという事になりましたが、何だかわかりません。茎の先のほうの葉は何か巻き込んでいるようです。開いてみると、中には実と白い小さな花がいくつか咲いています。寒さを避けるためなのか、不思議な姿です。山本さんが実を1つ切り開いてみると中には黒い種が入っていました。このおもしろいウリ科の植物ですが、山本さんが下山後に山梨県立図書館にかけこんで調べてくれ、ミヤマニガウリと判明しました。



旧残土置き場では、アケボノソウやホタルサイコ、オトコエシなどの実と来年の根出葉などを確認しました。焼山峠でツルリンドウの赤い実、クモキリソウの実、カンボクの実を見ました。アメリカセンダングサがあったのにはちょっとびっくり。また2週間前にピンク色だったアキノウナギツカミの花は薄緑で、先端部は真赤になっていて、これもかわいかったです。いつものことながら、ここまですお昼近くになってしまいました。

乙女高原の駐車場に車を止め、ホソバツルリンドウを観察しました。ススキに巻き付いて薄紫色の花をたくさんつけていました。これまで遊歩道わきに咲いていたのが、遊歩道のコースが変わって、踏み付けがなくなるので、増えてほしいと願っています。湿地に向かうと、リンドウが咲いていました。内側は紫色で外側は寒さのためか、えんじ色で美しかったです。でもルリハムシのような甲虫が花びらを食べているようでした。湿地ではタニソバの葉のふちが真っ赤に紅葉してきれいでした。ヤチボウズの中にもアケボノソウが数本咲いたようでした。



12時半過ぎ、ようやくロッジ前に到着して昼食。座っていると寒いくらいで、温かい食べ物や飲み物がおいしかったです。

昼食後に草原内を歩きました。草原はススキの原で、ヤマドリゼンマイは茶色、イタドリは黄色など草もみじが始まっています。森のコースを登っていくと、クチベニタケなどのキノコ類、トリカブト、真赤に熟したマイヅルソウの実などが見られました。展望台まで行きましたが、富士山は雲の中で見えません。



2020/10/03 14:31
タチフウロの実



2020/10/03 15:06
ゲンノショウコの実

草原内の花はほとんど終わっていますが、ところどころに残り花がきれいに咲いていたりもしました。ヤマラッキョウがいくつか咲いていましたが、リンドウは曇っていたためか、開いているものはありません。残念でした。葉が赤紫に色づき、花は黄色いアキノキリンソウが印象的でした。また

別のアキノキリンソウの花にはルリハムシのような甲虫がたくさんいました。花粉まみれになっている黒いハチもいました。ノダケの花に3歳くらいのキアゲハの幼虫がいて、今から成虫になれるだろうかと心配になりました。また別の葉には終齢幼虫もいて、頭をツツツンすると、オレンジ色の角を出すのも観察しました。

草原で盛り上がったのが、タチフウロの実。ゲンノショウコは別名、ミコシグサと言われるように、実のはじけて上向きにカールし、御輿の屋根のような形になります。そのゲンノショウコと同じ仲間のタチフウロですが、この向きが逆になっていたのです。まだはじけていない実を上を向いていますが、種を飛ばした実の下向き、下向きにカールしています。実のついた茎は途中で関節みたいに曲がって下向きになっていました。いつの時点で下を向いたのでしょうか。下に向けて種を飛ばしたのか、種を飛ばしてから下向きになったのか。このことに気づいてタチフウロを見ながら歩くと、中には横向きや上向きのももありましたが、おもしろかったです。他のフウロソウの仲間はどうなっているのでしょうか。

ロッジ前にもどって、温度計をみると17℃。空気が冷たく感じます。林道を少し観察した後、6月の観察会で花を見たミヤマハンショウヅルの実はどうなっているか確認したいという話になり、大弛峠へ向かう途中、鶏冠山西林道の入口まで行きました。ミヤマハンショウヅルは綿毛のような実になっていました。美しかったです。もう少し乾燥してふわふわになったら、種が離れて飛んでいくことでしょう。ここでの観察が終了後、解散となりました。

いろいろな実などを観察して新しい発見もあり、色づき始めた晩秋の乙女高原を楽しんだ一日となりました。

◆世代を紡ぐ植物たち… (2020/10/25)

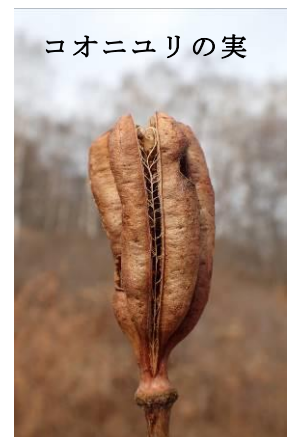
記事：植原 彰

1日快晴でした。真っ青な空。太陽の光が紅葉に降り注ぐと、そこだけ赤が見事に浮かび上がり、どきっとするほどきれいです。乙女高原に向かう林道の途中で、何度も車を止めては、紅葉の写真を撮りました。後で写真を見ると「こんなじゃなかったんだけど」って、いつも思うんですけどね。

乙女高原に着きました。気温は10℃以下。もちろん暖かなジャンパーを着ていますが、肌寒いのです。草原は一面のススキ原。草原の向こうで、ダケカンバはすでに冬のいでたち、シラカバは落葉の真っ最中。そんな木々の中で、葉を落とさないウラジロモミの緑が存在感を増していました。

この時期のちょっとした楽しみはコオニユリの実。どういうわけか横っ面に穴が開いているのが多くて、自分は鳥の仕業じゃないかと思っているのですが（嘴でつついたように見えるので。それに、マツムシソウの実を鳥がつついているのを見たことがあるので）、井上さんから「えーっ、虫じゃないですか」と反論され、いつか現場を見てやるぞと思っています。

…って、そのことじゃなくて、実を見つけると、指ではじいてみるのです。スイカがおいしいかどうか指パッチンする感じです。すると、まだ熟してないやつは、中身が詰まっていて、まさしくスイカのコンコンといった感じがするのですが、実が熟してくると、なんとなく中が空洞で、軽くて、マラカスみたいな感じになってきます。そうなったら、もう少しで縦に割れ目が入ります。その割れ目にはスケスケのレースが付いています。お、実際に、割れ目まで入っている実もありました！ そしたら、割れ目に向かって横から息を吹きかけます。すると、レースから入った空気がたねを押し上げて、実の上からたねがこぼれ落ちました。たぶん少しでもたねを遠くまで落とすための工夫だと思う



コオニユリの実

のですが、割れ目にレースが入ることによって、割れ目から直接たねはこぼれ落ちずに、ある程度以上の風が吹いたときだけ、風の力によって、たねが実の上から飛び出すしかけになっているのです。ユリの実であれば、このレースが付いていますので、フーッと息を吹きかけてみてください。そういえば、アヤメの実も、ヤマオダマキの実も、トリカブトの実も、レースこそありませんが、上が開いていて、上からたねがこぼれ落ちるようになっています。

この時期は、ほかにもいろいろな実・たねが見られ、おもしろいですよ。ノハラアザミ、ハバヤマボクチ、ハンゴンソウ、マルババタバキ、ヨツバヒヨドリ、シラヤマギク、ゴマナなどは、タンポポみたいな綿毛を持ったたねです。でも、綿毛の形状が違います。タンポポみたいにたねから柄が出て、その先が無数に分かれていて、打ち上げ花火みたいになっているものから、柄がなくて、たねからいきなり花火が打ちあがっているもの、綿毛にさらに枝が付いているもの・・・などなど。同じ綿毛といっても、いろいろな様式美があって、ルーペでみると、さらにおもしろいです。

綿毛と同じく散布のために風を利用しているたねでも、イタドリやオオバギボウシはたねをラミネートした感じです。たねをはさまずにラミネートフィルム同士が直接接着した部分がたねのまわりに広くあって、それが翼の代わりにしています。

マユミの真っ赤な実もちょうど見ごろでした。濃いピンクの実(たねのカバー)が二つに割れて、中から朱色っぽいたねがのぞいています。両方ともビビットな赤で、その対比が面白いです。

そうそう、エイザンスミレの実がよく見られるのもこの時期です。まったくスミレにはだまされます。春先、小さな葉を出し、可憐な花を見せてくれるので、か弱いイメージがありますよね。ところが、夏には春とは似ても似つかない、大きな葉を出します。かよわいというイメージはまったくありません。エイザンスミレにいたっては、葉の形もまったく違います。大きく3つに裂けた葉です。そして、晩秋になると、花らしい花をつけないのに、実を付けてしまいます。これを閉鎖花と呼ぶそうです。自家受粉しちゃうのだから、わざわざきれいな花を咲かせなくてもいいでしょ、省略省略…ということでしょうか。みもふたもない感じです。森のコースで見られますよ。

いろいろな木を見上げると、この時期、葉が薄くなっているのでしょうか。ステンドグラスみたいに光を通して、とてもきれいです。ミズナラは明るい黄緑色、ハウチワカエデは朱色、ヒトツバカエデはクリーム色。葉脈がアクセントになっています。遠くに、雪をかぶった富士山の姿もよく見えました。

ツツジのコースを歩いていると、ヒッヒッヒッと小さな声が聞こえてきました。アトリの群です。しばらく立ち止まって、彼らが近寄ってくるのを待ちました。お日様の光が横から直接、アトリの体に当たるので、色がくっきりと見えます。きれいですね。次から次へとやってきて、そして、飛び立っていきます。しばらく見ていました。動きが速すぎてはっきりしたことはわからないのですが、アトリたちはどうも木の芽を食べているようです。ふと、「なんの木の芽を食べているんだろう」と疑問を持ち、アトリの止まっている木に着目してみました。不思議なことに、アトリの止まっている木はすべてシラカバでした。近くにミズナラやアカマツ、ズミもあるのに、シラカバばかりです。アトリはシラカバの木の芽がお気に入りなのかもしれません。結局、30分そこにとどまり、ゆっくりバードウォッチングを楽しみました。アトリの群の中に一羽だけマヒワが混ざっていました。また、群の最後近くに、ルリビタキもいました。もっとも、この子は偶然アトリと一緒にいただけだったのかもしれません。

今日は特に調査など「乙女高原でやらねばならない」ことはなく、また、夕方に用事はありましたが、それまで十分時間があつたので、ゆっくり自然観察を楽しむことができました。自然の中でゆったりした時間を過ごすとは、なんか癒されて、心が豊かになった感じがしますね。ミヒヤエル・エンデの『モモ〜時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語』を思い出しました。ロジに戻り、秋の日に照らされた草原を眺めながらベンチでお昼を食べ、ゆっくりコーヒータイム。そして、森の木々のステンドグラスを見上げながら林道を歩いて自然観察し、乙女高原を後にしました。



オオバギボウシの種子



マユミの実

◆天然ドライフラワーの散策(2020/12/5 自然観察交流会) 記事：鈴木 辰三

12月5日、今年最後の自然観察会交流会が行われました。参加者は4名。コロナ第3波に見舞われる中なので、牧丘の道の駅に集合した後は各自の車で高原へ向かうこととしました。

最初にヤマアカガエルの産卵調査を行っている通称カエル池に立ち寄りました。例年であればそろそろ氷が張り始める時期ですが、今年は水が全くありません。そういえば夏にこの場所でボーリング調査をしていたようです。その影響なのでしょうか？ 周りを見回すと本来この辺りには生息しないヨシの仲間や水辺を好むトチノキが生えていること・水脈の痕などがあることから以前は豊富に水があった場所であったことが伺われます。水がなくなった原因はわかりませんが、いずれにしてもヤマアカガエルの産卵にどのような影響を及ぼすかが心配です。

次に、山口林道のサワラ林付近で途中下車です。ここは昨年カメバヒキオコシの氷華が見られた場所です。今頃の季節、ほとんどの草花は枯れてしましますが根はまだ働いていて水分を茎の上まで吸い上げています。気温が氷点下になると吸い上げられた水分が凍って茎を破り氷の華のように見えます。この現象を氷華と呼んでいます。キク科やシソ科の植物によく見られるようです。今年はずっと暖かい日が続いているせいか白い氷の華を見ることはできませんでした。代わりにイタヤカエデやウリハダカエデの赤い冬芽がきれいでした。

続いて焼山峠から小檜山林道に入った途中で車を止めました。去年はこの辺りでも何種類かの氷華がありましたが、今年は見ることができませんでした。ここでは天然のドライフラワーと化したノコンギク・ゴマナ・シシウド・コウゾリナ・アケボノソウ・アヤメなどを観察しました。夏の様子を思い出しながら葉の形や出方などいろいろ見るのですが、同定できない種も少なくありません。また、この時期定番なのは冬芽の観察です。アブラチャンは尖った水滴形の葉芽の両脇にまん丸い花芽がついています。ヤマハンノキやツノハシバミは、雄花ははっきりわかるのですが雌花はまだ小さくてよくわかりません。暖かくなって冬芽が膨らむのが今から待ち遠しい気分です。

いろいろ寄り道をしていると、いつものことながら乙女高原到着はお昼過ぎになっていました。昼食の時に枯れ草姿の図鑑がないことが話題になり、ドライフラワーの乙女高原フィールドガイドがあるといいなという話になりました。ぜひとも作ってみたいですね。

昼食を食べてからは高原内の散策です。いつもは森のコースを通るのですが、草刈りが終わり歩道のロープも取り外されているため斜面を自由に登っていくことができます。オケラやハンゴンソウ・ハバヤマボクチ・フシグロセンノウ・シラヤマギク・マルバダケブキなどたくさんのドライフラワーを楽しみました。ロープがないので遊歩道から少し離れたところにクモキリソウの群生を見つけることができました。夏には見えない場所での発見です。草刈りのおかげで幼木の冬芽も良く目立ちます。オオカメノキ・ハリギリ・ヤマウルシ・ホオノキの冬芽はどれも個性的です。シラカバ林の中では数羽のコゲラとゴジュウカラが群れていました。そういえばこの日はあまり鳥を見ていないことに気づきました。近年鳥の数が減ってきているように感じます。

その後も枯れ草のオブジェを楽しみながら進んでいくと、ツツジのコースでわずかに残ったツルウメモドキの実が高原に彩りを添えていました。少し地味な季節ですが、自然のいろいろな姿を見ることができて楽しい1日を過ごすことができました。新型コロナの影響で様々なイベントが中止や縮小になってはいますが、今後も変わることなく観察を続けながら乙女高原の保護に取り組んでいきたいものです。



◆氷の華のオブジェを探しに・・・ (2020/12/20)

記事：井上 敬子

12月20日、乙女高原に行きました。12月5日の観察交流会で見ることができなかったシソ科植物の氷華が、数日間の冷え込みで、できているのではないかと思ったのです。途中の林道でキセキレイ、コガラ、コゲラ、ホオジロを見かけました。木々はすっかり葉を落とし、見通しがよいので、鳥の姿も見やすい時期になりました。

途中のサワラ林の所では昨年、氷華を見ましたが、5日の日にはまだできていませんでした。今回はどうかと思って、近づく斜面に点々と白いものが見えます。車を止めて観察しました。カメバヒキオコシの枯れた根元に氷が噴き出して白い飴細工のような氷華がたくさんできていました。形は花のようなもの、リボンのようなもの、三角錐のようなものなどさまざまに不思議だし、おもしろかったです。

焼山峠に到着。湿地や細い沢はすっかり凍りついていました。昨年、カメバヒキオコシの氷華を見た小樽山林道へ行こうと思ったら、ゲートの鍵が閉まっていたので、塩平方面に少し下った林道沿いにたくさんあったカメバヒキオコシを見に行きました。落ち葉に覆われていて目立ちませんでしたが、落ち葉をかき分けてみると、やはり氷華ができていました。焼山峠に戻り、小樽山林道を歩いてみました。斜面に氷華のできていた場所がありました。小樽山への登山道に合流する地点まで行きました。昨年はここにたくさんの氷華が見られたのですが、今回は少なかったです。林道ではいろいろな植物のドライフラワーも見ることができました。ハナイカリ、ヤマホタルブクロ、ミツバベンケイソウ、ヤグルマソウ、アカバナ、ノコンギク、トモエソウ、ジャコウソウ、ミツモトソウ、イケマ、イタドリなどです。種がついているものもあって、ルーペで観察すると、それぞれに違う形でおもしろかったです。植物が子孫を増やすための種子の散布戦略はさまざまで、そのために実や種の形が違ってきます。それを見ていくのも楽しいです。林道からは金峰山がよく見えますが、雪は全くついていませんでした。



カメバヒキオコシの氷華

焼山峠に戻ると、鳥の鳴き声がします。見るとコガラが数羽、カラマツの中を飛び回っています。しばらく様子を見てみるとアカゲラのドラミングが聞こえてきたので、探すとやはりカラマツの幹をつついていました。他にも数種の小鳥が灌木の中で飛びまわっていました。

ゆっくり観察していたので、乙女高原に着いたのは昼になってしまいました。ロジ前で急いで昼食。天気はよいですが、風が強く冷たかったです。案内板の裏の温度計は3℃、百葉箱の中をのぞくと-3℃。寒いはずですが。

午後は草原内を観察しました。草刈りですっきりきれいになった草原内にはあちこちに土の小山ができています。モグラの仕業でしょうか。キク科の花の綿毛の種などを観察しながら、ツツジのコースに行ってみました。陽があたらない所があるので、何かの植物に氷華がないかと思って探しましたが、見つかりませんでした。でも霜が残っていました。六角形の結晶が花のようで美しかったです。レンゲツツジの冬芽などを見ながら斜面を登って尾根へ出ました。傘をかぶったようなかわいリョウブの冬芽が見られました。展望台手前の斜面にはウスユキソウのドライフラワーがたくさんあります。ウスユキソウには三角錐形の透明な氷華ができるので、楽しみにしていたのですが、昼過ぎになって溶けてしまったようです。が、陽当たりの悪いところに少し残っていたのを見ることができました。



展望台では富士山がよく見えました。風が強いのか雲が湧いて流れています。ヨモギ頭に登ると木の間越しに甲斐駒ヶ岳や白峰三山なども見えました。また青空にダケカンバの白さがまぶしく見えます。その後、ブナじいさんの所に行ってみました。例年なら草刈りボランティア時に落ち葉の布団かけをしてあげるのですが、今年ではできなかったのが寒そうです。「元気だね」と声をかけ、水が森林道へ下りてみました。法面にはソバナやクモキリソウの、道下の斜面にはオクモミジハグマやメタカラコウのドライフラワーがありました。ここでもコガラ、ヤマガラ、コゲラ、ゴジュウカラなどの姿を見ることができました。

林道をロジのほうに戻っていくと、途中の林の斜面にシャベルカーが入って道を作り、木を伐り出していました。ここは夏にはいろいろな花が咲くところです。来年はどうなるのか心配です。ロジに戻ると陽も傾き始めてきたので、草原をあとにしました。この日も氷華をはじめ、ドライフラワーや木々の冬芽、小鳥などいろいろなものを見ることができました。冬でも楽しめた乙女高原でした。

◆鳥がいた! → だまるさんがころんだ (2021/1/1)

記事: 植原 彰

元旦、地区の拝賀式を済ませ、家族でお節料理とお雑煮を食べ、乙女高原を目指しました。お正月ですから、金桜神社にお参りし、お守りを買ってから向かいました。

まずは去年教えてもらい、その存在に大いに盛り上がった「氷華」です。旧杣口林道(今は県道)「サワラ学術参考林」に車を止め、カメバヒキオコシの枯草を探すと、すぐに見つかりました。茎の根本についた氷の華。まるで飴細工のようで、いろいろな形があります。植物によっては冬になっても土の中の水分を吸収して吸い上げ続けるものがあり、それが凍ってできるものだそうです。よく見ると、茎を縦に裂いて出てきているのがわかります。

中にはとても薄くて、向こう側が透けてみえるような「氷の板」もありました。

柳平の乙女湖はほとんど凍っていませんでした。道の両側にうっすら雪が残っています。車載温度計はマイナス2℃。途中、道の横の沢が凍っているところを通りました。1週間前は氷の下から水の流れる音が聞こえましたが、今回は聞こえませんでした。1週間に比べて、少し氷面が少し高まっていました。このまま氷がだんだん高くなり、しまいには道路面より高くなり、道路に「氷」があふれ、路面がツルツルになってしまったこともあります。氷の面がだんだん高くなるので、個人的に「氷のダム」と呼んでいます。

ここで、本日、一番盛り上がった発見がありました。氷の上に薄く雪が降り、その上をシカが歩いた跡です。氷だけだったらシカの足跡は残らなかったのですが、「雪が薄く積もった」というのがミソ。雪で全面白くなったところに、シカが歩くのだからその跡は透明になります。シカの行動がはっきり「見えて」きます。「ひづめが二つ」の、まさにシカらしい足跡もありますが、ひづめの2つがツーッと長く筋になっているものもあります。ここでツーッと滑ってしまったのでしょうか。中には、その2本の筋が途中で直角に折れ曲がっている跡もありました。ツーッと滑り始めたところで、「なんのこれしき!」と体勢を整えたのだと思います。スケート初心者の動作みたいで、面白すぎました。

乙女の草原に着きました。草原にも雪が降ったようで、うっすら残っているところがあります。風が強くて、寒い。防寒をしっかりしました。雲が結構なスピードで流れていきます。かなり近い空を飛んでいます。乙女高原の背景は奥秩父の山々で、乙女高原から南は標高は低くなり、甲府盆地になります。風によって運ばれてきた雲が山々を越えて、乙女高原あたりから離陸しているんじゃないかと思います。松本零士さんの「銀河鉄道 999」でC62に牽かれた列車が大空に斜めに突き出した線路を登っていき、ついに空中を走りますが、そんなイメージです。だから、乙女高原で空を見上げると、離陸したばかりの列車(雲)の下を見上げることになります。雲が甲府盆地に達するころは地上からの高さもだいぶ高くなるので、あまりスピードも感じないし、形もぼんやり見えているのだと思います。彩雲を期待しましたが、今日は見えませんでした。

前回訪れたときに乙女高原の草原とその周辺でカヤネズミの巣を探したので、今回は少し足を延ばし、ブナじいさん経由で「第2乙女高原」に向かいました。「第2乙女高原」は、乙女高原から水が森林道を少し走ったところにある草原で、第2のスキーゲレンデになるはずだったところですが、いい草原だったのですが、「第2高原」裏山のカラマツを伐り出すために作業路ができてしまい、露出した地面が痛々しかったです。ここでカヤネズミの茎上巣を探していたら、「？」に遭遇。乙女高原ではシカの食害によってハバヤマボクチが見られなくなってしまい、シカ柵を作って3年目くらいからようやく花が見られるようになったのですが、「第2高原」に立派なハバヤマボクチのドライフラワーがあるではありませんか。もちろんここにはシカ柵はありません。なのに、なぜ？

巣を見つけました。大きさといい、丸っこいところといいカヤネズミの巣に似ていますが、これはウグイスの巣。以前、乙女高原で「イタドリ刈り」というプロジェクトに取り組んだことがあります。乙女高原がイタドリに占領されそうだったので、場所を決めて、イタドリだけ選択的に刈り取ってみるという実験だったのですが、その際に、ウグイスが巣を架けたイタドリまで刈ってしまいました。仕方がないので、せめてもという思いでじっくり観察し、そのときにウグイスの巣を覚えました。

巣を探しながら草原の中を歩き回っていたら、小鳥の群が近寄ってくれました。ぼくが静かにうろついていたので、危害は加えないだろうと判断してもらえたようです。しばらく双眼鏡で見っていました。草原内にアカマツの老木があり、そこに止まりました。てっぺん近くに止まり、松ぼっくりの中にある実を掘り出して食べているように見えます。赤…というより、ちょっとゾクツとする朱色のヤツと目立たないオリーブ色のヤツ。たぶんオスとメスでしょう。朱色のヤツは、羽の縁が黒っぽく見えます。尾羽の先はV字型。上のくちばしの先が猛禽類みたいに下に細く出ているように見えました。そのうち、飛び立ってしまいました。10羽の群でした。車に帰って、野鳥図鑑で調べてみたら、イスカでした。くちばしが上下でくいちがっているのだそうです。だから、くちばしの先が細く出ているように見えたのですね。

「第2高原」ではカヤ巣は見つかりませんでした。それ以外のちょっとしたススキ原も探しましたが、成果は0。やっぱり巣を見つけた井上さんの眼力ってすごいです。

ロッジに帰る林道の上で、さかんに餌をついばんでいるウソにも出会いました。のどもとがショッキングピンクのオスが2羽、ちょっと地味なメスが2羽でした。こんなシチュエーションの時、ぼくはよく「だるまさんがころんだ」をやります。小股でゆっくり前進します、「だるまさんがころんだ」と心の中で唱えながら。止まって写真を撮ります。写真を撮ったら、また「だるまさんがころんだ」…を、鳥が飛び立つまで繰り返します。小股1歩ちょうど50cmで歩けるように練習してありますから、「だるまさんがころんだ」で5m進むことになります。特段距離を気にしないで正確に測れるということです。この時は3回「だるまさんがころんだ」をしたら、飛び立って、ちょっと向こうの草の茎に止まりました。茎に止まりながら、隣の草の実をついばんでいます。ここから、「だるまさんがころんだ」のリベンジです。今回も3回で飛び立ってしまったので、止まった茎に近づいて、食べていた実を確認し

ました。ダイコンソウでした。一つ、失敗しました。食べていた実を早く確認したくて、思わず近づいてしまいましたが、飛び立ってしまったら、そこからウソがいた草までの距離を「だまるさんがころんだ」で測るべきでした。

太陽が照っているのにすごく寒いので、急いでカップラーメンを食べ、出発しました。今度は湿地の方を歩きました。湿地では「氷のダム」と同じ原理で、湿地がアイススケート場のようになっていました。谷地坊主が氷のお風呂に浸かっているようです。山仕事の管理道路を歩きました。側溝の水が道路を横断するようになっていくところがあるのですが、その蓋つきU字溝がコンクリートの道路面から30cmも持ち上げられていました。これでは車は通れません。霜柱の力ってすごいです。これが谷地坊主を作っている原動力なのですね。

フォーラム延期のお知らせ

1月31日(日)に開催予定だった乙女高原フォーラムですが、コロナウイルス感染拡大により開催を延期することを決定しました。草刈りや観察会と違ってインドアの催しですから感染リスクが高くなります。講師としてお招きした鷺谷いづみさんからもコロナ禍での講演をご心配いただき、涙を呑んでの決断です。丸々1年の延期です。次回の乙女高原フォーラムは2022年の1月です。

気が早い話ですがスペシャルゲストをご紹介します。鷺谷いづみさんです。日本を代表する保全生態学者です。以前、鷺谷さんの書いた『サクラソウとトラマルハナバチ』という文章が小学校5年生の国語の教科書に載っていて、マルハナバチ調べ隊で紹介したり、街の駅やまなしでの乙女高原展で触れたことがあります。フォーラムでは「改めて、生態系・生物多様性とは何か」「生態系・生物多様性を保全するために何をしなければならないか」「その際の市民(活動)の役割は」「草原の生態系・生物多様性を保全するときの注意点は」といったこととお話ししたいと考えています。

【鷺谷いづみさんの著作…の一部】

サクラソウの目 ～保全生態学とは何か～ 地人書館
<生物多様性>入門 岩波ブックレットNo.785
実践で学ぶ<生物多様性> 岩波ブックレットNo.1015
自然再生 ～持続可能な生態系のために～ 中公新書
さとやま ～生物多様性と生態系模様～ 岩波ジュニア新書
よみがえれアサザ咲く水辺～霞ヶ浦からの挑戦 文一総合出版
花はなぜ咲くのか 山と溪谷社

乙女高原ファンクラブ 活動予定

◆2020年度定期総会のご案内

今年も定期総会の時期になりました。「乙女高原の自然を次の世代に」を合言葉に活動してきた乙女高原ファンクラブもいよいよ20年目に突入です。

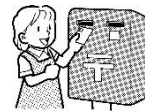
総会では今年度の活動を振り返り、来年度の活動計画を話し合います。「Withコロナ時代にどのような活動を行うことができるのか」様々なご意見をいただきたいと思います。

また、今回は世話人の改任があります。「乙女高原の自然を次の世代に譲り渡すために2年間、力をお貸しいただける方、ぜひ立候補をお願いします。乙女高原ファンクラブは市民によるボランティア活動団体です。「この指と～まれ」の指にとまるくらいの気楽な気持ちで立候補してください。できるだけたくさんの方の世話人で支える乙女高原ファンクラブにしていきたいです。

この会報に総会への出欠ハガキ(委任状を兼ねる)が同封されています。現時点での予定で結構ですから、必要事項をご記入の上、早めに投函してください。

3月14日(日)午後2時
街の駅やまなし 会議室

※例年と場所が違います
ご注意ください



出欠ハガキの投函を
よろしくお願いします

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、総会の開催方法に変更があるかもしれません。その場合は別途ホームページ・メーリングリストなどでご案内します。

2021～2022(2年間)世話人への立候補をよろしくお願いします

乙女高原の自然を豊かなままに次の世代にしっかりバトンタッチするために、乙女高原ファンクラブの世話人に立候補していただけませんか？ 出欠ハガキにご記入の上、投函してください。ハガキで立候補→総会で承認→世話人誕生！…という手順になります。

◆乙女高原ファンクラブ 20周年展

2021年4月22日、乙女高原ファンクラブが設立20周年を迎えるのを記念して、この20年間の活動を振り返れるような展示会を開催します。

- 主催 街の駅やまなし・乙女高原ファンクラブ
- 会期 3月12日(金)～16日(火) 毎日10時～16時
- 会場 街の駅やまなし (JR山梨市駅から北へ徒歩2分)
- 内容例 ファンクラブ20年のあゆみ(年表と懐かしい写真)
新聞記事で振り返るファンクラブの20年
乙女高原の春夏秋冬
乙女高原の地形(立体模型)などなど

＝ボランティアも募集しています＝

- ①展示作業 3月11日(木) 17:30～ 街の駅やまなし
展示ボードや長机を設置し、パネルや展示物を設置していきます。
1時間以内に終わる予定です。
 - ②展示受付 3月12日(金)～16日(火) 10時～16時 街の駅やまなし
受付机に座っていて、見に来てくださった方に記名してもらい、検温します。
会期中の10時から16時の間で、ご都合のいい時間帯をお知らせください。
 - ③撤収作業 3月16日(火) 16:00～ 街の駅やまなし
片付け作業です。机等は消毒していただきます。消毒液は会場で準備。
- ※ボランティアに立候補いただける方は、事務局までご連絡ください。



展示のイメージ

◆乙女高原自然観察交流会(活動予定)

- ・集合 「原則」午前9時 道の駅 はなかげの郷牧丘(国道140号沿い)
乗り合わせて乙女高原に向かいます。
- ・持ち物 弁当、水筒、あとは観察用具。標高が高いので防寒着も用意してください。
- ・参加費 無料。



【乙女高原観察交流会 覚書】since2015.12

- 乙女高原ファンクラブとしての行事でなく、参加者各自の自主的活動として行うもので、活動に伴う旅費や飲食、傷害保険などすべて自己責任となります。
- 途中からの参加や、午前中だけの参加など自由ですが、解散時間の目安は現地3時、道の駅3時半とします。
- 雨天の場合などは現地には行かず、道の駅での交流会にしたり、早めに散会するなど、参加者各自の意思で決めてもらいます。
- 参加者は乙女高原ファンクラブのメルマガメンバーとしますが、お知り合いを同行されることは自由です。
- 乙女高原観察を通じた交流目的のため、参加者間で情報を共有できるように、乙女高原ファンクラブ世話人会の了承のもと、メルマガなどを利用させていただきます。

<今後の日程>

⑪02月06日(土)

⑫03月06日(土)

※09:00～ 牧丘の道の駅集合

●2020年は本当に新型コロナ一色の1年でした。今後はafter コロナ・with コロナの時代をどのように行動していくのかが問われます？ 乙女高原ファンクラブの活動に対するご意見をお聞かせください。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら370円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,370円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→在庫切れ

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに

『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドⅡ マルハナバチの観察と調査のおともに 『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド 『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみに
お送りしています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ